

(5) 在蘇聯邦德國公館

8

S 13.1.5.0-2

119

M-0197

0282

人事課

歌亞局

公第一四二號

昭和十一年九月二十七日

在オデッサ

領事 平田

外務大臣 有出 八郎 殿

在「キエフ」獨逸國領事館昇格ニ關スル件

今般在「キエフ」獨逸國領事館ハ總領事館ニ昇格シ同地駐在ノ國領
 事「グロスコブ」(Wilhelm Grosskopf)ハ八月二十一日附ヲ以テ
 同地駐在ノ總領事ニ任命セラレタル旨九月二十二日附書簡ヲ以テ當
 館ニ通知シ來レリ
 尙當地獨逸國領事館ニテ聞ク所ニ依レハ「キエフ」領事館ノ昇格ト
 共ニ「ハリコフ」總領事館ハ單ニ領事館トナリ同地駐在ノ總領事「
 ワルター」氏ハ八月ヨリ本省ニ勤務シ居レリトノコトナリ
 右報告ス

在オデッサ日本領事館

昭和十一年拾月廿壹日接
 領事館
 平田



S 13,1.5.0 -2

120

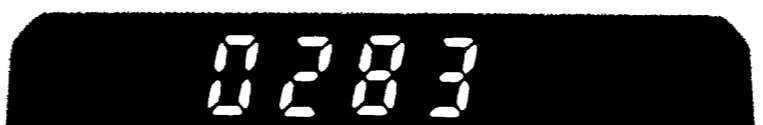
本信寫送付先 在蘇大使

在オデッサ日本領事館

S 13,1.5.0 -2

121

M-0197



人車
加藤

分類(1)1510.2-6

歐亞局

機密公第三九號

昭和十二年三月八日

在オデッサ

領事 平田

外務大臣 佐藤 尙武 殿

獨逸領事館管轄區域縮少等ニ關スル件

在當地獨逸領事ハ昭和十年十一月離任以來今日迄後任者ナク領事館事務代理ニテ館務ヲ處理シ來リタル處今回右代理モ豫テ休暇ヲ稟請中ノ折柄其許可ト前後シテ歸朝ヲ命セラレタルニ依リ臨時在莫斯科獨逸大使館ヨリ外交自補ヲ派遣スルコトニナリタリ且當地獨逸領事館管轄區域モ從來ノ「オデッサ」州、「クリミヤ」共和國及「モルダビヤ」共和國ナリシヲ單ニ「オデッサ」州ノミトシ他ノ二地域ハ在莫斯科大使館ニ移管セラレタリトノコトナリ
右代理ノ私見ナリトテ小官ヘノ内談ニ領事ヲ任命セス又自分ノ後任

在オデッサ日本領事館

昭和十二年四月廿日

12.4.2

12.4.16

平田

モ未決ナル上管轄區域ノ縮少アリタルヨリ推スルニ或ハ館定員ノ減少ヲ決セルモノニテ從來ノ如ク領事、書記生一名、雇一名ヲ置カサル方針ナランカトノコトナリ
右報告ス
本信寫送付先 在蘇大使

在オデッサ日本領事館

S 13.1.5.0-2

123

S 13.1.5.0-2

122

M-0197

0284

歐亞局

第一課

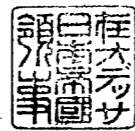
機密公第七四號

昭和十二年四月二十六日

在オデッサ

領事 平田

卷



外務大臣 佐 藤 尚 武 殿

富地獨逸領事館管轄區域縮少ノ理由ニ關スル件

本件ニ關シ去ル三月八日附機密公第三九號(在蘇大使ハ第二〇號) 推信ヲ以テ申進シ直キタルカ其後極秘裡ニ富地獨逸領事館員ヨリ附ク所ニ依ルニ同館ノ管轄區域縮少ハ蘇側ヨリノ強制的トモ云フヘキ 希望ニシテ不特已獨逸側ハ之ニ應シタル次第ナリ 尙在「ハリコフ」獨逸領事館ノ管轄區域ハ現在「ハリコフ」州「ドネプロベトロフスク」州「チエルニコフ」州「ドネツ」州ノ四州ヲ包含スル處之亦「ハリコフ」州ノミニ縮少シ他州ハ之ヲ「キエフ」總領事館管轄區域ニ繰入セシメントノ議起リ居ル由ナリト

在オデッサ日本領事館

S 13.1.5.0-2

124

昭和十二年五月拾八日接受

右報告ス

本信寫送付先 在蘇大使

在オデッサ日本領事館

S 13.1.5.0-2

125

電信課長

大臣

次官

東亞 歐洲 米商 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 祕書官

寫送先

13.1.5.0-26

昭和12

九八八六

暗

莫斯科

五月廿九日前着

歐

佐藤外務大臣

重光大使

第四〇七號

往電第三六七號ニ關シ

獨參事官ノ西ニ内話セル所ニ依レハ二十七日外務部ヨリ「オデツサ」
及浦潮ニアル獨領事館ノ閉鎖方口頭ヲ以テ希望申出テタルニ付獨側
ハ即座ニ之ヲ拒絕シタル由尙在「オデツサ」獨領事ハ幾ニ任命アリ
タルモ蘇側ニ於テ認可狀ヲ發給セサル趣ナリ（「オデツサ」發貴大
臣宛機密公第二六號參照）
浦潮、「オデツサ」へ轉電セリ

外務省

電報
モスクワ
五月廿九日
午後
着

日
本
外
務
省
に
送
る
電
報
の
件
に
關
し
の
事
を
考
へ
て
お
し
や
う
と
す
る
に
あ
ら
ま
す
。

13.1.5.0-2

126

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 文人 會計 會社 秘書官

大臣 次官

電信課長

分類 M.1.5.0.2-6

昭和12 一一三一九 略 オデッサ 十五日發 情、歐

廣田外務大臣 平田領事

第一一號

六月十三日附 Frankfurter Zeitung ハ大要左ノ莫斯科電報ヲ掲載セ

リ

蘇側ハ在蘇獨逸領事館中「オデッサ」及浦潮ヲ閉鎖セントシ日本ニ

對シテモ同態度ナルモ未タ何レノ領事館ナルヤ判明セス云々

蘇へ轉電セリ

外務省

S 13.1.5.0-2

128

發信用執務用					
主信					
附	甲				
	乙				
	丙				
	丁				
備考					

暗送ノ1

分類 M.1.5.0.2-6

文書課長

文書課發送 昭和十二年六月拾日 發送

主 歐亞局長

第一課長

昭和十二年六月七日起草

正校(原稿)

淨書

昭 和 十 二 年 六 月 八 日 日 附 附 屬

歐一機密 第六八八號

受 在 德

植田大使

廣田大臣

名 件 電信寫送付件

御参考迄ニ別紙送付ス

昭 和 十 二 年 五 月 廿 八 日 莫 斯 科 外 務 大 臣 宛 電 報 戸 口 七 号 留 及

日 五月廿八日 坤甸 茶 日 上 戸 口 八 号 留

在ソシ獨逸領事館ヲ閉鎖

名 件 録 記

名 人 信 發

外務省

S 13.1.5.0-2

127

M-0197

0287

電信課長
林 健

大臣
次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調査 人事 文書 會計 會社 祕書官

寫送先

分類 2115.0 2-6

昭和12 一五四六二 暗
莫斯科 廿二日後發
本省 七月廿三日後着 歐
廣田外務大臣
第六四九號 (極秘)
往電第五四一號ニ關シ
重光大使

當地獨逸代理大使ハ十五日本使ニ對シ蘇側ハ最近獨大使館ニ對シ在「オデツサ」及在浦潮獨領事館ヲ閉鎖サレ度キ旨決定的ニ申出テタル旨語レリ尙數日前七田カ南露ヨリ歸莫ノ途中ニテ落合ヘル在「キエフ」波蘭總領事「シデレフスキ」(莫斯科大使館參事官ヲ兼任シ居リ七田ノ「ブライグ」時代同僚)ハ波蘭トシテハ蘇側ノ望マサル領事館ヲ存續スルモ無益ナルニ付自發的且廢止領事館ノ選擇ヲ

外務省

S 13.1.5.0-2 129

波蘭ニ委スルニ條件ノ下ニ在蘇領事館ニ箇ヲ閉鎖スルコトニ決定シタリ其ノ候補トシテハ「キエフ」ニシテ他ノ一ハ「レニングラー」又ハ「チフリリス」ナルヘキカ「レニングラー」ハ貿易モ少ク且其ノ關係事項ハ莫斯科ニテ一切ノ交渉行ハレ居ルニ付重要性ナキニ反シ「チフリリス」ハ多少地方當局ト交渉ノ餘地アレハ多分前者ノ廢止ヲ見ルヘシト語レル趣ナリ(了)

外務省

S 13.1.5.0-2 130

M-0197

0288

(分類 111.5.0.2-6)

電 信 案	在ソレ大使發本大臣宛電報六五五號	暗	電送第 13941 號	管主
		昭和十二年七月七日 午後七時二十分發	歐亞局長	
外 務 省	(全文轉電)	名	件	宛
		鎖問題ニ關スル件	在ソレ大使發本大臣宛電報六五五號	在備 植田大使
		第 五三九 號		主任 第一課長
		(極秘)	名件録記	發
			外務省 鎖問題ニ關スル件	廣田大臣
			外務省 鎖問題ニ關スル件	

S 13.1.5.0-2

132

寫
送
先

大臣 次官
東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 會社 秘書官

電信課長

極秘

昭 和 12	一 五 六 二 〇	暗	莫 斯 科
			本 省
			七 月 廿 四 日 前 着
			廿 三 日 後 發
			歐
			廣 田 外 務 大 臣
			第 六 五 五 號 (極 秘)
			第 六 四 九 號 ニ 關 シ
			末 段 閉 鎖 領 事 館 ノ 候 補 「 キ エ フ 」 ト ア ル ハ 「 ハ リ コ フ 」 ノ 誤 リ
			(了)

S 13.1.5.0-2

131

極秘

電信課長

大臣

次官

東亞 歐西 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 祕書官

寫送先

(分類 M 15.0.2-6)

昭和12 一七六八六 暗

伯林 六日後發
本省 八月七日前着

歐

廣田外務大臣

武者小路大使

第二八七號 (極秘)

貴電第一四三號ニ關シ (在蘇領事館網縮少ニ關スル件)

去ル三日柳井「シユミードン」東方部長會談ノ際先方ノ意嚮ヲ尋ネ
タルニ「シユ」ハ獨逸ノ立場ハ日本ト似タル點アルモ蘇聯居留民多
數アルコト等ニ於テ日本ト立場ヲ異ニスル處既ニ十日以前ニ本件蘇
政府ノ申出ニ對シ拒絶ノ回答ヲ發シタリト述ヘタル趣ナリ
六日在當地波蘭大使來訪本件ニ關スル帝國政府ノ態度ヲ尋ネタルニ
付前記貴電ノ趣旨ニ依リ適宜應酬シタルカ (貴大臣宛在波公使發本

外務省

S 13.1.5.0-2

133

在外務省の領事館に
在ソ解印ノ部

件電報ヲ參酌シ傳聞スル所ニ依レハ波蘭政府ノ態度明白ナラサル
ヤニ思考セララル處元來領事館數ノ如キハ國際法上制限アル次第ニ
アラス獨逸モ既ニ蘇側ノ申出ニ對シ拒否ノ回答ヲ發シアル趣ナル次
第二モアリ波蘭側ニテモ我方ト同様ノ措置ニ出テラレテハ如何ト述
ヘタルニ同大使ハ之ニ贊同シ早速本國政府ニ電報スヘシト答ヘタリ
波蘭へ轉電セリ

外務省

S 13.1.5.0-2

134

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

大臣 次官

電信課長



昭和12 二〇九二一 暗 浦潮 廿一日前發 歐
 本省 八月卅一日後着

廣田外務大臣 杉下總領事
 第三六三號

往電第三〇〇號ニ關シ

獨逸領事代理病氣引籠中ナルヲ以テ之ヲ確カムルコトヲ得サルモ同
 領事館雇員(獨逸人)ノ廣岡ニ對スル内話ニ依レハ同領事館ハ閉鎖
 (其ノ時期ハ未タ不明)ニ決定セリト言フ

蘇へ轉電セリ

外務省

S 13.1.5.0-2

136

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

大臣 次官

電信課長



昭和12 二〇七〇八 暗 オデッサ 廿八日後發 歐
 本省 八月廿九日後着

廣田外務大臣 平田領事
 第二一號

廿八日當地獨逸領事館事務代理ノ内話ニ依レハ未タ蘇側ヨリ獨逸ニ
 對シ期限附閉鎖要求ヲ爲セリトノ報ニ接シ居ラス今日特ニ日本ニ對
 シテノミスル強硬態度ニ出テタルハ支那事變ヲ好機トシテ出來得ル
 限り自己ニ有利ニ解決センカ爲ナラント

蘇へ轉電セリ

外務省

S 13.1.5.0-2

135

蘇領事館
 八月廿九日
 午後
 八時
 平田領事
 宛
 電
 送
 付
 了
 杉下

M-0197



總務部
二・七・八

東亞局
第三課長

(分類 類M門)類5項0目2-6)

電 信 案	オデワサ發本大臣宛電報第二一號	暗	電送第 19358 號	管主	電信課長
		平略	昭和 12年 8月 1日 夜 12時 50分 發	歐亞局長	發電係
外 務 省	(全文轉電ノスト)	名	在 滿 植 田 大 使	任 主	第三課長
		件	在 滿 獨逸領事館	發	廣 田 大 臣
		第 70 號	記 録 名 件	昭 和 十 二 年 八 月 三 十 一 日 起 草	31 41

S 13.1.5.0 -2

138

手
心

東亞局
第三課長

(分類 M1,500,2-6)

電 信 案	浦潮發本大臣宛電報第三六三號	暗	電送第 19476 號	管主	電信課長
		平略	昭和 12年 9月 1日 夜 13時 20分 發	歐亞局長	發電係
外 務 省	(全文轉電ノスト)	名	在 滿 植 田 大 使	任 主	第三課長
		件	在 滿 獨逸領事館	發	廣 田 大 臣
		第 202 號	記 録 名 件	昭 和 十 二 年 九 月 一 日 起 草	1 44

S 13.1.5.0 -2

137

M-0197

0292

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和12 二二四〇一 (暗)

莫斯科 十三日後發
本省 九月十四日後着

歐

廣田外務大臣

第八六七號

往電第六四九號ニ關シ

九月十三日獨逸大使館員ノ當館員ニ對スル内話ニ依レハ蘇側ハ五月
二十七日以來七對二ノ現狀ニアル兩國領事館ニ付同數主義ヲ主張シ
獨側ニ五箇所閉鎖ヲ要求シ第一着トシテ期間ハ附セサルモ「オデツ
サ」及浦潮ノ大至急閉鎖ヲ督促シ居リ交渉ハ最後の段階ニ達シ居ル
模様ナルカ從來獨逸側ハ(イ)相互ノ協定ニ依リ解決スヘキコト(ロ)蘇聯
邦ハ領土廣大ナルコト(ハ)最惠國待遇ニ依ルヘキコト等ヲ上ケテ反駁

外務省

S 13.1.5.0-3

139

シ來レル由
尙同館員ノ語ル所ニ依レハ蘇側ノ逮捕シ居ル獨逸人ハ約四百人ニ達
スヘク其ノ内蘇側ニ於テモ獨逸人タルコトヲ認ムル者三百名ヲ超ユ
ル由
獨へ轉電セリ

外務省

S 13.1.5.0-2

140

0293

分類 M-13.0.2-6

機密第 〃〃〃 號
 昭和十二年十月十三日
 在浦潮斯德
 總領事 杉下裕次
 外務大臣 廣田弘毅 殿

當地獨逸領事館ノ閉鎖引揚問題ニ關スル件

當地獨逸領事「フオン、ザウケン」氏カ蘇側地方官憲ノ不法壓迫ニ依リ遂ニ日本ヘノ休暇旅行ヲ名トシテ引揚クルニ至リ當地同國領事館モ閉鎖セラル、コト、ナリタル趣ニ付テハ既ニ及報告置キタル處久シク病臥中ナリシ領事代理快復セルヲ以テ十一日廣岡ヲシテ同代理ヲ往訪セシメ本件ニ付尋ネシメタル處同代理ハ同領事館カ閉鎖セラルヘキコトヲ確認シ本國ヨリノ訓令ヲ待チ居ル次第ナル旨語レル趣ナリ

在浦潮日本帝國總領事館

S 13.1.5.0-2

142

歐亞局

昭和十二年十月十三日

歐亞 12.10.25

第三課
 東亞局
 下
 總務課
 二四〇一
 中
 (分類 M 1.5.0.2-6)

電 信 案	電話第 21194 號 昭和十二年九月十四日 時 0 分 發 名 宛 12.9.14 在滿 梅白 古歐	主 管 主 任 昭和十二年九月十四日起草
電 信 案	第七六四號 在ソ大使希東古氏宛電報 第八六七号 (以下全文)	記 録 名 件 古歐 古歐
外 務 省		

S 13.1.5.0-2

141

寫送先

秘書官 會計書 人事 調查 文書 情報 條約 通商 米亞 歐亞 東亞

次大臣 官

電信課長

分類 13.1.5.0-2-6

禁印

昭和12 二七八〇四 (暗) 莫斯科 十月卅一日後發 歐
 本省 十一月一日前着

廣田外務大臣 西代理大使

第一〇七四號

三十日獨逸參事官ノ宮川ニ内話スル所ニ依レハ此ノ程「シユレンプ
 ルグ」大使ヨリ蘇側ニ對シ三箇月ノ猶豫期間ヲ以テ在浦潮及「オデ
 ツサ」領事館ノ閉鎖ニ同意スル旨申入レタル處蘇側ハ其ノ要求タル
 「ミュンヘン」及「ブレスラウ」ニ於ケル蘇聯領事館設置ニ同意ヲ
 與ヘサルニ於テハ双方領事館數同一トナラサルニ依リ在蘇獨逸領事
 館數ヲ更ニ減少スヘキモノナリト主張シ獨側トシテハ「ミュンヘン」
 ハ「ナチ」ノ本據ニテ又「ブレスラウ」モ他ノ理由ニ依リ「ソビエ

外務省

S 13.1.5.0-2

144

在浦潮日本帝國總領事館

右電報々告ニ對スル追加トシテ報告ス
 本信寫送付先 在「ソヴィエト」聯邦大使
 (傳書使便ニ依ル)

S 13.1.5.0-2

143

東京局

(分類 M 1.5.10.2-6)

電 信 案	外 務 省	以下全文轉電ノコト (編第子ニ七八〇四)	暗 送 第 27433 號	管 主 歐 亞 局 長	電 信 課 長 發 電 係 1 54
			昭和 12.11. 日 午後 8 時 分發	任 主 第 一 課 長	
		發 本 大 臣 宛 電 報 第 一 〇 七 四 號	宛 在 滿 植 田 大 使	發 源 田 外 務 大 臣	
			件 名 由 題 關 ス ル 件	記 録 名 件	

S 13.1.5.0-2

146

「ト」領事館ノ設置ヲ認メ難ク結局ハ「レイニングラード」、「キ
 エフ」、「チフリリス」ニ於ケル三總領事館ヲ維持シ「ハリコフ」及
 「ノヴォ」領事館ヲ閉鎖スルコトトナルヘシトノコトナリ
 獨ヘ暗送セリ

外務省

S 13.1.5.0-2

145

東京局
申川

(分類) M 1.5.0.2-6)

電 信 案	以下全文轉電ノコト (総務局) 三〇一五九	發本大臣 宛電報第一一六三號	暗	電送第 29570 號	管主
			手配	昭和二十一年十一月二日 午後四時 分發	歐亞局長
外 務 省			名	件	宛
			第一一八九號	在滿 植田 大使	發 送 外 務 大 臣
			記 録 件 名		
			昭和二十一年十一月廿二日起草		

電信課長
發電係

22 23

S 13.7.5.0-2 148

電信課長

大臣
次官

東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文情
調查
人書
文計
會計
祕書官

(分類) M 1.5.0.2-6)

昭和12 二九九一〇 略
莫斯科 十一月十八日後發
本省 十九日前着
情、歐

廣田外務大臣
第一一五五號
重光大使

往電第一〇七四號ニ關シ

十八日各紙ハ十五日終了セル領事館網ニ關スル蘇獨政府間外交交渉ノ結果獨逸政府ハ來年一月十五日迄ニ在「レニングラード」及「チリス」總領事館竝ニ在「ハリコフ」、浦潮及「オデッサ」領事館ヲ閉鎖スルコトナリタル旨ノ「タス」發表ヲ掲ケ居レリ
獨へ暗送セリ

老總內侍

外務省

S 13.7.5.0-2 147



寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 儀典 文書 會計 會社 秘書官

大臣 次官

電信課長

(分類) M 1.5.0.2-2

昭和13 五四 略 浦潮 一月一日前發
本省 一日夜着

廣田外務大臣 七田總領事

第二號

當地獨逸領事館事務代理ハ三十一日附公文ヲ以テ二日閉館ノ次第並ニ當館從來ノ好意ニ對シ獨逸外務省ノ名ニ於テ謝意ヲ表スル旨通告シ越セリ

蘇へ轉電セリ

蘇ヨリ獨へ轉報アリタシ

S 13.1.5.0-2

150

外務省

郵送

(分類) M 1.5.0.2-6

電信案	電送第 29740 號	主 管 歐亞局長
	昭和12年11月24日	任 主 第一課長
	在滿 在滿 桂田大使	發 送 外務大臣
	減少ノ件	記 録 名 件
	本大臣宛電報第一一五五號	

(以下全文轉電ナシ)

S 13.1.5.0-2

149

外務省

M-0197

0298

電信課長

森

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人典 儀典 文書 會計 會社 祕書官

寫送先

昭和13 一八〇四 (暗)

莫斯科 一月廿一日後發 歐
本省 廿二日前着

廣田外務大臣

重光大使

第六五號

往電第四七號ニ關シ

二十日伊太利大使ノ語ル所ニ依レハ同日ヲ期シテ伊ハ「オデツサ」
ヲ除ク全部ノ領事館ヲ閉鎖セルカ「オデツサ」領事館モ非常ナル壓
迫(館員一名逮捕)ヲ蒙リツツアル趣又同日阿富汗大使ハ領事館間
題ニ關シテハ條約上阿富汗ハ六箇、蘇ハ五箇ノ領事館ヲ有スルヲ得
ルニ拘ラス現在阿富汗ハ二箇、蘇ハ三箇ヲ有シ蘇ノ要求ハ是等ヲ全
部閉鎖スルニアル處自分ノ有スル内訓ニ依レハ蘇側要求ニ對シテハ

外務省

S 13.7.5.0-2

151

本國政府ノ訓令未着ヲ理由トシテ出來ル丈ケ遲延策ヲ執ルコトナ
リ居レリト語レリ(了)

外務省

S 13.7.5.0-2

152

M-0197

0299

電信課長

大臣

次官

東亞

歐亞

米洲

通商

條約

情報

文書

調查

人事

儀典

文書

寫送先

昭和13 六〇四四 平 伯林 三月三日後發 本省 四日前着 歐

廣田外務大臣 東郷大使

第一〇二號

在蘇獨逸領事館問題ニ關シ在蘇獨逸代理大使ハ本國政府ノ訓令ニ依
リ三日蘇聯外務委員會代表ニ對シ在「キエフ」及在「ノボシビリス
ク」獨逸領事館ニ對スル蘇聯側ノ不法行爲ハ獨逸側數次ノ抗議ニ拘
ラス未タ終止スルニ至ラス故ニ右ハ故意ニ基ク領事館事務ノ妨害ト
認ムル外ナキヲ以テ獨逸政府ハ來ル五月十五日限り在「ケーニツヒ
ベルク」及在漢堡蘇聯領事館ノ閉鎖ヲ要求スルコト且右ト同期限ニ
前記在「キエフ」及在「ノボシビリスク」獨逸領事館ヲ閉鎖シ蘇聯

外務省

S 13.1.5.0 -2

153

内ニ於ケル獨逸ノ領事館事務ハ爾後在蘇獨逸大使館領事部ニ於テ之
ヲ管掌スヘキコトヲ通告シタル旨發表セラレタリ(了)

外務省

S 13.1.5.0 -2

154

M-0197



電信課長
大臣
次
東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文書
調查
人典
機事
秘書官
計書官

類 M/5.0.24

昭和13 六四三一 略 莫斯科 三月七日後發 八日前着

廣田外務大臣

第二七八號

獨發貴大臣宛電報第一〇二號ニ關シ

六日ノ新聞ニ蘇獨間外交交渉ノ結果近ク在蘇獨領事館及在獨蘇領事館ノ閉鎖ニ付協定成立セリト發表セリ

右ニ付七日獨參事官ハ館員ニ對シ二日代理大使ヨリ「ボチヨムキン」ニ冒頭電ノ趣旨ニテ申入レ置キタルニ對シ五日「ボ」ハ右ニ同意スト述ヘタルニ付獨政府トシテハ同意ヲ求メタルモノニアラス要求セルモノナリト斷ハリタルニ拘ラス勝手ニ前記ノ如ク發表セルモノナ

重光大使

情、歐

蘇獨間外交交渉ノ結果近ク在蘇獨領事館及在獨蘇領事館ノ閉鎖ニ付協定成立セリト發表セリ

外務省

S 13.1.5.0-2 155

ノナリト語レリ
獨へ暗送セリ

外務省

S 13.1.5.0-2 156



外務省

ノナリト語レリ
獨へ暗送セリ

S 13.1.5.0-2

156

寫送先

外務省

類	項目	號
1	5	0
2	1	2

本信寫挿入先
ルニ付獨政府トシテハ同意ヲ求メタルモノニアラス要求セ
リト斷ハリタルニ拘ラス勝手ニ前記ノ如ク發表セルモノナ

S 13.1.5.0-2

155

大臣

次

電信課長

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事

昭和13 六四三一 略 莫斯科 三月七日後發 八日前着

廣田外務大臣

重光大使

情、歐

獨發貴大臣宛電報第一〇二號ニ關シ
六日ノ新聞ニ蘇獨間外交交渉ノ結果近ク在蘇獨領事館及在獨蘇領事
館ノ閉鎖ニ付協定成立セリト發表セリ
右ニ付七日獨參事官ハ館員ニ對シ二日代理大使ヨリ「ボチヨムキン」
ニ冒頭電ノ趣旨ニテ申入レ置キタルニ對シ五日「ボ」ハ右ニ同意ス

此案件在り各口ハ
モリスルハ
モリスルハ
モリスルハ

0302

M-0197

(分類) M. 1.5.0.2-6

照合票

公第一四八號

昭和十五年六月十八日 在タリシ

發信者 富田 公使館一等書記官

受信者 有田外務大臣

件名 独逸側在ソ市總領事館開館件

原書ハ左記ニ在リ

M 門類ノ項目ノ號

S 13.1.5.0-2

158

寫送先

大臣 次官 電信課長 東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文部 調查 儀典 文書 會計 會社 祕書官

(分類) 1.5.0.2.6

昭和14 九一三八 略 莫斯科 三月廿七日後發 本 省 廿八日前着 歐

有田外務大臣

東郷大使

第三二一號

在當地獨大使ヨリ二十一日附公文ヲ以テ三月十六日總統令ニ基キ獨
ハ致國ノ外交關係ヲ接收シ從テ在當地致國公使館ハ獨大使館ノ管理
ニ移サレタル旨通報セルニ付二十五日附ヲ以テ右通報ヲ了承スル
旨回答シ置ケリ尙在當地致國公使ハ二十四日附ヲ以テ獨逸ノ致國併
合ヲ承認セス依然致國公使トシテノ事務ヲ遂行スヘキ旨通報越シタ
ルモ右ニ對シテハ回答ヲ發セス爲念
獨へ轉電セリ

外務省

S 13.1.5.0-2

157

(記)

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 調查 人事 儀典 文書 會計 秘書官

大臣 次官 電信課長 供覽

13.1.5.0-2-6

昭和15 二七四三五 暗 維納 九月六日後發 歐
 本省 七日後着

松岡外務大臣 山路總領事

第一五五號

當地及「バツーム」ニ夫々領事館ヲ設置スルコトニ付獨蘇間ニ話
 合成立シ既ニ約三十名ノ蘇聯人當地ニ到着シ居ル旨ノ噂ヲ耳ニセ
 ルニ付當方面祕密警察長官ニ面接ノ際夫レトナク確メタル處同長
 官ハ蘇側カ當地ニ領事館ノ設置ヲ希望シ居ルハ事實ナルモ未タ決
 定ニ至リ居ラサル旨ヲ述ヘ居タリ(了)

外務省

S 13.1.5.0-2 160

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 調查 人事 儀典 文書 會計 秘書官

大臣 次官 電信課長

昭和15 二〇九七六 暗 本省 七月十五日後發 歐
 十五日夜着

有田外務大臣 大鷹公使

第二一六號

在蘇獨逸領事館復活ノ件ニ關シテハ曩ニ在「タリン」島田書記官報
 告ニ依リ御承知ノ通りナル處在 同地獨逸公使館ヨリ「レニングラー
 ド」へ轉勤ノ「ブリーヤ」副領事ハ九日本使ニ對シ復活セラルル領
 事館ハ「レ」ノ外「キーエフ」(又ハ「ハリコフ」)「オデツサ」
 「チフリス」及浦潮ノ四箇所ナリト内話セリ
 獨、蘇へ暗送セリ

外務省

S 13.1.5.0-2 159

歐亞局長

機密第一八四號

昭和十五年九月廿一日

在浦潮斯德

總領事館事務代理 高杉

外務大臣 松岡 洋右 殿

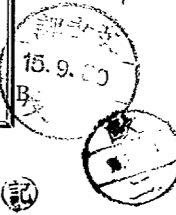
在浦潮獨逸總領事館ノ開設ニ關スル件

當地ニ獨逸總領事館開設ノ爲本年九月一日副領事「エルレワイン」
 (J.K. Ehlwein) 館員一名ヲ伴ヒ到着セル次第ニ關シテハ當時電報濟ノ
 通ニシテ爾來定期船問題及荷役改善等ニ關シ當館ト密接ナル聯絡ヲ
 保チツツ蘇側トノ交渉ニ善處シツツアル次第ナルカ右事務上其他ノ
 機會ニ副領事及館員ヨリ聽取セル處ヲ綜合スルニ當地獨逸國總領事
 館開設ノ模様大体左ノ通りト推察セラル

一、蘇側ニ於テハ「ハンブルグ」「ケンピスベルグ」及「ブラーグ」

在浦潮日本總領事館

在浦潮日本總領事館
 事務代理 高杉
 15.9.21



15.9.21-6

ニ領事館ヲ獨逸側ニ於テハ「レーニングラード」「バクー」ノ外
 當地ニ領事館ヲ開設スルコト、ナレリ

二、開館ノ爲九月一日前記「エルレワイン」副領事外館員一名到着シ
 「チエリユースキン、ホテル」ニ居住シ九月五日當館ニ着任挨拶
 ノ爲來訪セルカ未タ正式開館ノ通報ヲナシ來タラス小官ヨリ雜談
 ノ際ソレトナク貴總領事ハ何日ヨリ正式開館セラレタル次第ナリ
 ヤトノ意味ノ出問ヲナシタルニ先方ハ中央及當地ニ於ケル話合ニ
 依リ既ニ總領事館トシテノ職務ハ執行シ差支ナキコトトナリ居ル
 モ未タ正式開館ノ運トハナリ居ラストノ意味ヲ洩シ居タリ

三、館員ハ目下ノ處前記二名ナルモ更ニ總領事(新京ヨリ轉勤)館
 員一名着任スル豫定ニテ計四名位ナルカ如シ

四、所在地點ハ「テイグロヴァヤ」街二〇番地乃至二番ニシテ二階
 建(全部ニテ四住宅)一棟及平家別棟一棟ヲ提供セララルコト、
 ナリ居リ最初九月十日頃「ホテル」ヨリ全家屋ニ移轉ノ筈ナリシ
 際、家屋修理完^ル成^ス遲延ノ爲十五日、十九日、二十日ト順次繰延

在浦潮日本總領事館



ヘラレ現在ノ處蘇側ニ於テハ二十五日頃ニハ移轉可能ノ運トナル
ヘシト辨解シ居ルモ領事館側ニ於テハ未タ充分ナル期待ヲ置キ得
ストテ不滿ヲ洩ラシ居レリ

全總領事館當面ノ使命ハ當地通過獨逸向物資輸送ノ圓滑化ヲ計ル
ニアリ「エルレワイン」副領事着任以來先方ヨリ積極的ニ聯絡ヲ
求メ來タリ當館ヨリモ又差支無キ限リノ資料ヲ提供スル外定期船
問題並荷役狀況等ヲ絶ヘス機會アル毎ニ説明シ之カ協力ヲ求メ九
月十六日ノ如キ小官並全副領事同道ニテ荷役ノ現場ヲ視察スル等
互ニ蘇側ニ對スル交渉ニ善處シツアル次第ナルカ全副領事ノ小
官ニ洩ラス所ニ依レハ全副領事ハ本件特ニ荷役改善ノ爲外交代表
ニ屢々申入ヲナスト共ニ港務當局ト直接面談シタキニ付右斡旋方
ヲモ依頼シ其後督促セルモ港務當局ノ不在其他ニ事寄せ荏苒今日
ニ至ルモ未タ港務當局トノ直接面談ハ實現ノ運ニ至ラス當地ノ蘇
側事務並聯絡ノ滯振ニハ啞然タラサルヲ得ス之ノ上ハ伯林若シ
クハ莫斯科ニ依頼シテ在莫斯科海運人民委員部ヨリ當地出先ニ嚴

在浦潮日本總領事館

S 13.1.5.0 -2

163

重ナル指令ヲ發セシムルカ若シクハ當地ニ於ケル最高權力者ヲ求
メ直接之ニ訴フルノ外致方ナシトノ結論ニ達シタリトノ趣ナリ
六 蘇側ノ全總領事館ニ對スル態度ヲ推察スルニ蘇側カ新聞「ラデオ
ヲ通シ喧傳シ居ル現下ノ獨蘇間友好關係ニ鑑ミ寧ろ第三者ヨリ觀
テ期待ニ逆ムクモノアルヤノ感ナキニシモアラス九月一日館員到
着ノ際ノ如キハ當地外交代表ヨリ驛頭ニ出迎ヘタルハ全代表部女
秘書ニシテ他ハ「インツィリスト」ニ於テ世話シ居リタルモノ、
如ク廳官舎モ獨逸總領事館トシテハ極メテ手狭間且粗末ニシテ右
ニ對スル領事館側ノ不滿ヲ述ヘセメテ總領事ノ官舎ニテモ別家屋
ヲ提供セシメントシ居ルモ蘇側ニ於テ未タ同意セス又「ホテル」
ヨリ廳官舎ヘノ移轉ヲ督促セルモ急速ニハ取運ハス蘇側全般ノ内
部組織ニモヨルナランカ萬事獨逸側ノ意ノ如クニ運ハサルモノ、
如シ尾行ニモ付マトワレ居ルモノ、如ク時ニハ「ホテル」ノ廊下
ノ扉傍ニテ尾行ラシキモノヲ認ムルコトアリ一般蘇聯人等モ接近
ヲ恐ル、模様ナリト洩シ居レリ

在浦潮日本總領事館

S 13.1.5.0 -2

164

13.1.5.0-2-6

普通第一八五號
 昭和十五年十月二日
 在維納
 總領事 山路 章
 外務大臣 松岡 洋右 殿
 独蘇間ニ於ケル總領事館相互開設案ニ取極ノ件
 是表ニ於テハ於ケル蘇聯總領事館開設ニ關スル事
 付報告シ置キタル次第アル處ニ近着ノ Ostarrakische
 (独逸經濟露西亞委員會ノ機關誌)ニ依ルニ独蘇
 間取極ニ其全キテ独逸側ハ「レ」ニシテ「バ」ニ
 浦塩ニ於テ、又蘇側ハ「ケ」ニシテ「レ」ニシテ「バ」ニ
 於テ夫々總領事館ヲ開設セル事ナリ。

在澳日本公使館

S 13.1.5.0-2

166

記



本信寫送付先 在蘇大使 在獨大使
 七日用品、食料品等ノ現地物資ノ入手方ニ付外交代表ニ話シタル處
 果物ヲ除キ大体入手世話スヘシトノ回答ヲ得タル趣ナルカ實現ス
 ルヤ疑問視シ居リ領事館側ニ於テハ在莫斯科大使ノ輸入免稅額流
 用復活方交渉中ナリトノコトナリ
 ハ雜談ノ際ソレトナク當地支那領事館ノ模様ニ言及シタルコトアリ
 タルモ總領事代理ハ着任挨拶ノ爲支那領事館ヲ訪問シ又先方ヨリ
 答禮ヲ受ケタルノミニテ目下ノ處何等深入リタル交渉ヲ有シ居ラ
 サル模様ナリ

在浦潮日本總領事館

S 13.1.5.0-2

165

M-0197



電信課長

大臣

次官

東亞 歐洲 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 儀典 文書 會計 祕書官

寫送先

Ami 510. 2-6

昭和15 三〇八七二 平

伯林 十月九日後發
本省 十日後着

歐

松岡外務大臣

來栖大使

第一三二一號

今回獨蘇兩國政府間ノ取極ニ基キ獨側ハ「レーニングラード」・「バツーム」・浦潮ニ蘇側ハ「ケーニヒスベルグ」・維納・「プラーグ」ニ夫々總領事館ヲ開設シ蘇側各總領事館ハ查證事務ニ付在伯林大使館領事部ト同様ノ權限ヲ有スル旨七日「フランクフルター」紙ニ報セラレタルヲ以テ獨外務省ニ確メタル處右ノ通りニテ獨側各總領事館ハ既ニ事務ヲ開始セル趣ナリ
蘇へ轉電セリ

外務省

S. 13.1.5.0.2

167

在外各領事館(東京)
七ノ洋船(印)

